

平成28年度

友好提携都市中学生国際交流プログラム
韓国務安郡派遣研修報告書

派遣 平成28年8月 8日(月)～12日(金)

受入れ 平成28年7月25日(月)～27日(水)



北名古屋市
北名古屋市国際交流協会

目 次

● 「中学生国際交流プログラム」参加者名簿	1
①北名古屋市中学生交流団（務安郡派遣）名簿	
②務安郡青少年交流訪問団（北名古屋市受入）名簿	
● 北名古屋市中学生交流団務安郡派遣日程表	2
● 務安郡青少年交流訪問団北名古屋市滞在日程表	3
● 研修交流体験レポート	
①池山 理帆（天神中学校）	4
②奥山 晃那（白木中学校）	6
③加藤 実来（訓原中学校）	8
④安藤 百華（西春中学校）	10
⑤掛上 美妃（訓原中学校）	12
⑥吉田 萌乃（天神中学校）	14
⑦大島 侑樹（西春中学校）	16
⑧草川 伊織（白木中学校）	18
⑨上原 海愛（白木中学校）	20
⑩石原 美桜（訓原中学校）	22
⑪乾 真悠子（熊野中学校）	24
⑫吉永 沙和（熊野中学校）	26
○この体験レポートは、それぞれのページを、文章、写真、レイアウトまで、参加中学生が担当し作成しました。	
● 研修体験アルバム	
務安での交流体験	28
北名古屋での交流体験	31

● 「中学生国際交流プログラム」参加者名簿

①北名古屋市中学生交流団（務安郡派遣）名簿

学校名	学年	性別	氏名
天神	3	女	池山 理帆
白木	3	女	奥山 晃那
訓原	3	女	加藤 実来
西春	2	女	安藤 百華
訓原	2	女	掛上 美妃
天神	2	女	吉田 萌乃
西春	1	男	大島 侑樹
白木	1	男	草川 伊織
白木	1	女	上原 海愛
訓原	1	女	石原 美桜
熊野	1	女	乾 真悠子
熊野	1	女	吉永 沙和
北名古屋市福祉部長	団長		水野 高作
北名古屋市国保医療課長	副団長		大林 栄二
北名古屋市人事秘書課	渉外		徳力 桂子
国際交流協会	事務局		石原 育子

②務安郡青少年交流訪問団（北名古屋市受入）名簿

学校名	学年	性別	氏名
ムアン	1	女	崔 多恩
ムアン	1	女	張 休貞
ムアン北	1	女	金 새잎
ムアン北	1	男	崔 烘碩
ヒョンギョン	1	女	金 初希
モンタン	1	女	鄭 美智
ナムアク	1	女	金 素里
ナムアク	1	女	羅 禮珠
オリョン	1	男	李 東洵
オリョン	1	女	李 鎬貞
マンウン	1	女	李 智元
へぜ	1	女	李 은하
オリョン	教師		李 寅範
ムアン北	教師		朴 雅英
ムアン郡行政支援課	団体協力担当		羅 恩貞

● 北名古屋市中学生交流団務安郡派遣日程表

日 時		便名等	内 容	備 考
第1日 8月8日(月)	9:25～11:25	KE752 (大韓航空)	中部国際空港発→仁川国際空港着 ソウル市内へ移動	務安郡中学生合流 務安 (泊)
	14:05 15:52 17:05 18:00	ソウル龍山駅 KTX557 光州松汀駅 郡庁着	KTX務安へ 務安郡庁表敬訪問 →郡守、教育長表敬 歓迎晩さん会 歓迎晩さん会終了後ホテルへ	
第2日 8月9日(火)	8:30 9:20 12:00 13:30 15:15 16:00 17:10	スندگانル芸術会館発	スندگانル芸術会館集合 パド牧場体験(チーズ、牧場、干潟体験) 昼食 生態系干潟センター見学 ホダム航空宇宙展示場見学 務安窯見学 ホームステイ先に移動 引率者は夕食後ホテルへ	務安郡中学生合流 ホストファミリー合流 ホームステイ (泊)
	9:00 9:30 11:30 12:30 14:15 16:00 18:25 19:00	スندگانル芸術会館発 木浦発 KTX520 ソウル龍山駅着	スندگانル芸術会館集合 草衣禪師生誕地訪問 →茶道体験及び韓国文化体験 務安郡呉承雨(オスウ)美術館見学 昼食 フェサン白蓮池見学 KTXにてソウルへ 夕食 夕食後ホテルへ	務安郡中学生合流 ソウル (泊)
第4日 8月11日(木)	8:30 10:00 11:20 12:30 13:45 17:25	ホテル発	世界遺産 水原華城見学 韓国民俗村見学 昼食 南大門、仁寺洞散策 夕食 夕食後ホテルへ	ソウル (泊)
	11:40			
第5日 8月12日(金)	8:30 11:40	ホテル発	ソウル研修(青瓦台、景福宮、昌徳宮など) 昼食 ショッピング	
	19:05～20:55	KE751 (大韓航空)	仁川国際空港発→中部国際空港着	

《務安郡宿泊ホテル》 務安ビーチホテル 061-320-3733 (咸平郡咸平邑コンジュ路27)

《ソウル宿泊ホテル》 ホテル ホリディインソウル城北 02-929-2000 (ソウル特別市城北区鐘岩路123)

● 務安郡青少年交流訪問団北名古屋市滞在日程表

日 時		場所等	内 容	備 考
第1日 7月25日(月)	10:50	中部国際空港着	OZ122 (アジアナ航空)	
	12:00	ホテル着		
	12:15		昼食 (アイリス愛知)	
	13:30	総領事館着	駐名古屋韓国総領事館表敬訪問	
	14:15	総領事館発		14:30 北名古屋市中学生合流 (市役所東庁舎南駐車場)
	15:00	旧加藤家着	日本文化体験(茶席、浴衣)	
	16:15	旧加藤家発		
	16:30	北名古屋市役所東庁舎着	市長表敬(東庁舎会議室)	
	17:00	北名古屋市役所東庁舎発		17:00 ホストファミリー合流 (市役所東庁舎南駐車場)
	17:40	ホテル着		
	18:30		歓迎交流会	
20:00	ホテル発			
20:30	北名古屋市東庁舎着		20:30 着後解散 (市役所東庁舎南駐車場)	
			(アイリス愛知泊)	
第2日 7月26日(火)	8:15	北名古屋市東庁舎発		8:15 北名古屋市中学生合流 (市役所東庁舎南駐車場)
	8:45	ホテル着		
	9:45	トヨタ会館着		
	11:45		トヨタ自動車工場見学 昼食(トヨタ会館レストラン)	
	12:45	トヨタ会館発		
	13:30	名古屋城着		
	13:30		名古屋城見学	
	14:30	名古屋城発		
	14:45	名古屋市科学館着		
	15:20		名古屋市プラネタリウム観覧	
			名古屋市科学館発	
17:15	北名古屋市東庁舎着			
17:15	北名古屋市東庁舎南駐車場	その後、ホストファミリーへ (ホームステイ)	17:15 ホストファミリー出迎え (市役所東庁舎南駐車場) 務安引率者はホテルへ	
第3日 7月27日(水)			(ホストファミリーがアレンジ)	
	12:00	「まんぷく太郎」中之郷	昼食	12:00 中学生全員集合 「まんぷく太郎」
	13:30		次の研修先へ	

《宿泊ホテル》 アイリス愛知 名古屋市中区丸の内二丁目5-10
TEL 052-223-3753/FAX 052-223-3760 E-Mail iris_soumu@y8.dion.ne.jp

● 研修交流体験レポート

①池山 理帆 北名古屋市長天神中学校3年

1. この国際交流プログラムで学んだこと

今回このプログラムを通して、私は韓国について様々な事を知り、体験することができました。韓国という国に関してよく知らなかった私は、まず現在の日韓関係について詳しく調べました。2015年5月の東アジア研究院による世論調査によると、韓国に対する印象を「良くない」とする日本人の割合は5割、日本に対する印象を「良くない」とする韓国人は7割を超えるそうです。双方あまり良いとは言えない結果ですが、実際に足を運んでみると、「何故そんな印象になってしまったのだろうか?」と思うほど、とても過ごしやすい場所でした。昔の歴史による多少の偏見は仕方のないことだと思いますが、印象だけで相手の国を見るべきではないと思いました。中学生のみならず通りすがりの現地の方々も、私たちが日本人だと分かると挨拶をしてくださり韓国の人の温かみに触れることができました。



2. 日本と韓国の相違するところ

私は、14歳の女子中学生の家にホーム・ステイさせて頂きました。両親と3人で暮らし、小型犬を1匹飼っている彼女は、現在中学1年生だそうです。私はまず、その自己紹介に違和感を覚えました。日本の中学1年生はふつう12歳か13歳です。彼女は14歳なのに、何故中学1年生なのでしょう。話を聞くと、どうやら韓国の子もたちは、7歳で小学校に入る日本の子もたちに対して8歳で小学校に入学するそうです。出



会ってすぐに判明した日韓の相違点に、互いに驚きました。そして、そのホーム・ステイの夜は買い物に連れて行ってもらい、そこでも日本との違いと見習うべきところを見つけられました。まず、韓国はレジの形が違います。どのスーパーマーケットでも写真のような形のレジが設置されているらしく、レジを通した商品はベルトコンベアで動かされ、自分でカートに入れ直すシステムだそうです。このシステムを日本にも導入すれば、休日のデパートの混雑などが少しでも改善されるのではないのでしょうか。また、車で買い物に来た際に買った商品をビニール袋へ入れるのではなく、使い終わった段ボールへ入れて持ち帰るという文化も素晴らしいと思いました。最近では日本でもエコバッグをよく使いますが、やはり新品のビニール袋を使う習慣は根強く残っています。段ボールの方が環境にやさしく、商品も傷みにくいので非常に良い選択だと思いました。そしてホーム・ステイ先の中学生にも、日本に来てみて驚いたことを尋ねてみました。まず始めに指摘されたのは正座の文化です。韓国では女性でもあぐらをかくそうで、お茶席体験で正座をした際にとっても足が痛かったらしく「日本人はどうしてこんなに辛い座り方をわざわざするんだ!」と彼女は言います。これには私も、つい納得してしまいました。

3. これからの日本と韓国の交流について

今回のプログラムで、私は韓国について以前よりとても良い印象を抱くことができました。皆親切で、多くの魅力的な施設が立ち、美しい文化がある。そのような素晴らしい国のことを、何故私は知らなかったのでしょうか。前で述べたように、現在の日韓関係はあまり良いものではありません。しかし「百聞は一見に如かず」という諺の通り、い



くら事前に下調べしても現地では発見できないことが沢山ありました。これは国同士のみならず、人同士でも同じことが言えるでしょう。距離が縮まれば縮まるほど互いの良いところが見えてくる反面、悪いところも見えてきます。しかし、それを指摘して助言し合うことで、互いに高め合うことができるのではないのでしょうか。今の状況では難しい話かもしれませんが、今回のような交流を続けていけば、きっと両国の偏見もなくなっていきます。今回のプログラムを通して私は韓国という国について様々なことを学びましたが、国際交流の大切さについて学ぶことができたことが私にとって一番大きな収穫となりました。これからはこの体験で学んだことを周りの人々にも伝え、外国人との交流の素晴らしさを広めていきたいと思っています。

②奥山 晃那 北名古屋市長白木中学校3年

1. この国際交流プログラムで学んだこと

このプログラムの全てが勉強になりました。その中でも特に学んだことが3つあります。

1つ目は、韓国の雰囲気についてです。街は10代から20代くらいの若者が多かったです。南大門という商店街に行きましたが、どの店も店員が大声で商品の紹介をしていて非常に活気のある場所でした。商店街だけでなく街全体がそのように感じました。夜はさすがに人の数は少なくなるかと思いましたが、変わりありませんでした。それどころか閉まっている店のほうが少なく、店の電光掲示板もたくさん光っており、さらににぎやかになった感じさえしました。街だけではなく人も活気にあふれていました。韓国の人々は、積極的ではっきりと自分の意見を言います。全体的に、何事にも熱心で熱い国だと感じました。

2つ目は、韓国の文化です。韓国では、儒教的な価値観があり、若い人たちは年上の人を尊重しています。さらに親に対しても敬語を使っているようでした。日本では目上の人を大切にする意識が薄らいできているので、立派だなど思いました。また、伝統文化についても学びました。伝統衣装のチマ・チョゴリを着ました。伝統衣装と聞くと着にくいイメージがあ



りましたが、意外と簡単に着ることができました。女子の衣装の柄は黄色やピンクが多く華やかでした。その他にも、ハングル、伝統舞踊、陶磁器などの文化について学びました。どれもすばらしく、心に残りました。異文化を体験してみて、視野が広がりました。馴染みのないことが多く、不安に思うこともありましたが、慣れれば楽しかったと思うことが多かったです。

3つ目は、意思疎通の手段は言語だけではないということです。そう改めて実感しました。私は韓国語が全く話せない状態で韓国へ行きました。現地の人も日本語も英語もあまり話せず、分かり合える言語がありませんでした。そのような中でもジェスチャーや表情などで精一杯伝えようと、分かろうと頑張りました。大変でしたが、伝わった時の喜びは大きかったです。日本で友達と話すときは言語だけで通じるので、表情などをおろそかにすることが多かったです。しかし、この言語が通じない経験を通して、より自分の意見や感じたことを伝えるために表情をもっと大切にしようと思いました。

2. 日本と韓国の相違するところ、共通するところ

仁川空港に着いた時は、日本と違うところを1つも見つけることができませんでした。天候、気温は全く同じで、時差もありませんでした。しかし、街に出てみると相違点、共通点がよくわかりました。相違点について、特に印象に残った2つを紹介します。

1つ目は、食べ物です。料理は日本人向けに辛さを控えたものが出されていたようですが、それでもどの料理も味が濃くて辛いと感じました。キムチは日本でも食べていますが、韓国のキムチはそれに比べて随分辛かったです。日本のキムチは、日本人の口に合わせて作られているのだなと思いました。ちなみに、キムチは5日間朝・昼・晩必ず出ました。

2つ目は、食事の作法です。韓国の人々は食べ物を毎食、全部食べ切ることなく残していました。初めは「もったいないな」と思っていました。しかし韓国では、「もうお腹がいっぱいです。こんなにたくさんもてなしてくださってありがとうございます」という意味を込めて食事を残すのがマナーだそうです。「残すと失礼」という考え方の日本人とは全く逆でした。また、茶碗は手で持たないことなどがありました。さらに、目上の人を敬う文化が日本以上にある韓国には、食事は目上の人箸をとり食べ始めてから自分たちも食べ始めるというマナーもあるそうです。



共通点はたくさんあり、「やはりお隣の国だな」と思うことが多々ありました。その中でも特に驚いたことは、韓国でも日本と同じように親しい人の名前に、「ちゃん、くん」のようなものをつけるということです。女子の場合、名前の最後が母音で終わる場合は「ヤ」、子音で終わる場合は「ア」を名前の最後につけるそうです。例えば、私がホームステイさせていただいた家庭の娘は「セイバ」という名前でしたが、彼女のお母さんや従弟からはセイバと呼ばれていました。ちなみに男子の場合は、日本と同じように「クン」をつけるそうです。

3. これからの日本と韓国の国際交流について

私は、このプログラムが続くことを期待しています。青少年が、異国の地で友達をつくることは滅多にない経験だと思います。私自身も今回のプログラムを通して、韓国にたくさんの友達を作ることができました。交流を通して、韓国人も日本人と同じような感覚をもっていると思いました。だから通じ合うところも多く、接しやすかったし、楽しかったです。これでプログラムは終了しましたが、今回の出会いで結ばれた縁を大切にしていきたいです。

今は日韓で政治的な問題も起こっています。しかし、そのような状況下であっても、人々が私たちに嫌なことをすることはありませんでしたし、それどころか非常に親切に接してくださいました。未来を担う青少年の交流が続けば、いつかこのような問題も解決することができるかもしれません。そのための一つの方法として私は、今回の体験を周りの人に伝えていきたいです。



韓国の国花 ムクゲ

③加藤 実来 北名古屋市立訓原中学校3年

1. 北名古屋で感じたこと、務安で感じたこと

私が、このプログラムを通して感じたことは、日本と韓国の相違点です。一度も海外に行ったことのない私は、どんなところだろうと期待する反面、正直表面的な違いはあまりないだろうと思っていました。しかし韓国に着いてみると、景色をはじめ、たくさんの違いに驚かされました。

まず始めに飛行機でソウルに着き、新幹線の駅までの移動中の景色を眺めていると、大都市ソウルとは、思えないくらい自然が豊かでした。海があり、山もあり、その一方でビルや建物もあり驚きました。しかし、もっと驚いたことがあります。それは、乗車したバスのスピードが物凄く速いことです。最初はあまり気にしていなかったのですが、日本で感じたことのないスピードで走っていたので、気になってあとでホームステイ先の友達に聞いてみると、一般道は時速約80km、高速道路は約120kmで走ると教えてくれました。こんなことにも、国の違いが隠れていることに驚きました。そして、とても面白いと思い、韓国以外の国の制限速度も調べてみたいと思いました。

食事についても、たくさんの違いを見つけました。まず1つ目はマナーです。日本では、食器を持って食べますが、韓国ではそれは、行儀が悪いとみなされます。つまり韓国では、食器を持たずに食べることが、行儀が良いということです。この正反対のマナーにとっても驚きました。また、韓国の箸は金属でできていて、日本の箸より重くて細いので、最初は扱うのにとっても苦労しました。また料理も、初めて見るようなものがたくさんありました。どの料理もとても美味しかったです。特に美味しかったのは、焼き肉です。日本の焼き肉とは食べ方が少し違い、お肉やキムチや野菜の和え物をサンチュで巻いて食べました。とても美味しかったので、日本の焼き肉屋さんでも、提供してくれるとうれしいと思いました。



これだけたくさんの相違点があった中で、いくつかの共通点も見つけました。英語と韓国語での会話の中で、まれに日本語と同じ発音の韓国語が聞こえたときは、とても驚きました。例えば、「新聞」は韓国語でも「シンブン」でした。また、食事においては、韓国にも日本と同じようなお味噌汁がありました。さらに、スーパーやコンビニでは、日本の商品や日本語表記のものもあり、驚きました。

こうしたたくさんの共通点、相違点が発見でき、面白かったです。

2. ホームステイを体験して

ホームステイ先で、一番心に残ったことは、家族の優しさです。7月に日本に来てくれたミジと韓国で再会でき、とてもうれしかったです。色々な所に運転して連れて行って下さった、

お父さん。たくさんの美味しい料理を作ってくれた、お母さん。仕事から疲れて帰ってきたにも関わらず、荷物の整理まで手伝ってくれたお姉さん。皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

ホームステイ先の家を見て、日本の家の造りと違うことにも驚きました。海外では、トイレとお風呂が同じ部屋にあるということは知っていましたが、韓国の一般家庭でもそういう造りになっていることに驚きました。お風呂とトイレが別なのは、日本独自の文化だと再確認できました。

食事で驚いたことは朝食です。トッポギやキンパ、ケジャンを食べました。とても美味しかったです。予想以上の辛さに驚きました。私は辛い食べ物が大好きなので問題ないと思っていましたが、こればかりは辛かったです。韓国の方々は、普段からこんなに辛い物を食べているので代謝もよく、お肌も綺麗なのかなと感心しました。

連れて行っていただいたところで、特に印象に残っているのは、水上ショーです。初めて見るショーはとても迫力があり、音楽に合わせて噴水が光り、とても綺麗で感動しました。そして、こんな都会に港があることにも驚きました。木浦のデパートに買い物に連れて行っていただいた時は、全てが大きくて驚きました。商品を入れるカートやレジが日本に比べて大きく、外国のスーパーのコストコのような感じでした。全ての商品が日本より安かったと思います。また、家の近くの雑貨屋さんで買い物に行く途中、車の窓から外を眺めていると、韓国ドラマに出てきそうな市場がありました。とても賑わっていて、楽しそうでした。そんなところにも、文化や国の違いをたくさん感じました。



3. これからの日本と韓国の交流について

今、日本と韓国の関係は、正直良いとは言えません。しかし、私たちは、たった5日間の交流で、とても仲良くなることができました。そして互いに自国の良いところを、伝え合うことができました。同世代ということで、通じ合えるものがあつたからかもしれません。しかし、同世代でなくても色々なことを一緒に行い、楽しめば、国の壁、言葉の壁を越えて、どんな人でも通じ合えると思います。ですから私は、この国際交流を、これからも続けてほしいと思います。そして、もっと多くの人に、韓国と日本の素晴らしさを知ってほしいと思います。

今回の国際交流プログラムを通して、それぞれの国の良さが分かりました。このプログラムで学んだことを、しっかり伝えていくことが大切だと思います。また、このプログラムに参加できたことに、とても感謝しています。応募時から帰国まで、お世話になったすべての方々、本当にありがとうございました。

④安藤 百華 北名古屋市立西春中学校2年

1. 私がこの国際交流プログラムで学んだこと

私は去年の務安郡派遣にも応募しましたが、MARS（マーズ）が大流行してる時期で行く事ができず中止になりました。だから、「今年こそは絶対に行きたい！韓国のお友達がほしい！日本と違う文化を学び体験したい！」と思っていたので、とても楽しくすべてが新鮮で勉強になりました。

私のペアの子は、ナ・イェジュちゃん。初めて会う時、言葉も通じないし、まったくコミュニケーションが取れず、「仲良くなれなかったらどうしよう」と不安でいっぱいでしたが、私から勇気を出して、事前に学んだ韓国語で自己紹介をしました。韓国語の発音が難しくて残念ながら上手く通じませんでした。でも、それがきっかけでお互いの緊張が解けて、だんだん日本語、韓国語、英語、ときどき翻訳アプリで会話することができ、すぐに仲良くなりました。



翌日、イェジュちゃんが私の家にホームステイした時に何がしたいかを聞いたら「コンニャクゼリーを買いたい」と言いました。なぜコンニャクゼリーか聞くと、韓国では日本のお菓子がとても人気で、とくにコンニャクゼリーが一番人気。たくさんのお友達にお土産を頼まれたと言っていました。あと、日本の名物のプリクラも一緒に撮りました。プリクラに日本語、韓国語でお互いの名前を書きました。とても喜んでくれました。日本のアニメも人気で、ドラえもん・ジブリアニメの事も知っていて、話が盛り上がりました。話をしているうちに気が付いた事があり、日本語と韓国語が少し似ていました。例えば「公務員」を「コウムウォン」、「準備」を「ジュンビ」とイントネーションは違うけど、同じような発音をする言葉がたくさんあり、ビックリしたけど、なるべくアプリに頼らず三ヶ国語を交えて会話することができるようになりました。言葉の壁を感じることもなくとても楽しい時間を体験することができました。

2. ホーム・ステイを体験して

私は、今回の派遣で一番楽しみにしていたことがホームステイです。

事前に私の家に来て仲良くなったので何も不安はありませんでした。「韓国に来たら何が食べたい。オンマ（お母さん）に準備してもらおうね。」と聞かれ、「トッポギが食べたい！」とリクエストしていたので、夜ご飯がとても楽しみでした。

このホームステイで体験した事が4つあります。まずは、食文化です。夜ご飯は本当にトッポギができました。真っ赤な色で見てるだけでも辛いだろう、と思いましたが予想通りとても辛かったです。でも辛いだけじゃなく少し甘味もありとても美味しかったです。



あと、デザートに桃がでてきたのですが、日本の桃と違ってパキパキして固かったです。

2つ目に感じた事は、トイレとお風呂です。日本は別々になっているが、韓国の家はホテルみたいにトイレとお風呂が同じ部屋にありました。だから、誰かがシャワーしてる時にトイレに行きたくなっても終わるまで我慢しました。

3つ目に感じた事は、車と道路です。車の運転席は日本だと右側にあるが、韓国は左側にありました。道路も日本と走行方向が逆で、ホームステイ先の家族と外出する時に車に乗りましたが違和感があり、酔ってしまいました。

4つ目は、キュウリパックを韓国のオンマ（お母さん）にやってもらいました。ドラマでも見たことがあり、「本当にキュウリでパックするの!？」と思いましたが、薄くスライスしたキュウリを顔にのせてもらおうと、キュウリ臭くなるけど、少し冷たくて気持ちよかったです。翌朝、ビックリするくらい肌がモチモチスベスベしていました。だから、「韓国人は肌がキレイな人が多いんだ。」と実感しました。

3. これからの北名古屋と務安の交流について

私は、このプログラムを通じて、北名古屋と務安の友好が深めることができ、とても良い経験ができたと思い感謝しています。

日本にとって韓国が一番近い外国で、北名古屋と務安は姉妹都市なので、私とイエジュちゃん、他の韓国のお友達も姉妹のように、これからも、もっともっと仲良く、困った時はお互いを助け合える関係でいたいと思います。

私が体験したこと、感じた事、韓国にお友達がいることを、これからもたくさんの人に感じてもらえるように、務安と北名古屋をつなぐ通信やイベントや交流する機会を増やし、深め合うべきだと思いました。私もお手伝いできるような活動をしていきたいと思っています。



⑤掛上 美妃 北名古屋市立訓原中学校2年

1. 日本と韓国の相違するところ、共通するところ

「衣」私たちは日本でいう着物である韓国の「チマ・チョゴリ」を着ました。チマ・チョゴリは着物とは違って上下に分かれています。上の服は右胸のほうにひもが付いていて結び方を学びました。下の服はとても薄くて軽く、よく見るとかわいい花柄の模様がついていました。日本の着物の模様とは一風違って一つ一つのお花が刺繍されていました。日本でも韓国のドラマで「チマ・チョゴリ」を着ているのを見て、私も着てみたいと思っていたので、この機会をととてもうれしく思っています。



「食」辛いです。韓国には日本よりも辛いものがたくさんあります。韓国に入国したとき、一番はじめに私が食べたのはキムチでした。やはり日本よりも辛いですが、五日間食べて全て同じ味とはいえませんでした。中には、酸味が強いものもありました。様々な種類があって、



味比べができとても楽しかったです。そして、辛いものに少しなれたような気がします。もうひとつは、韓国特有の食器や食べ方についてです。韓国の食器は鉄でできた食器もあれば陶器のものもありました。日本ではご飯を食べる時、お茶碗で頂きますが、韓国では鉄の蓋つきのお茶碗で食べます。箸も鉄でできていて、長さが長くて慣れませんでした。美味しく食べることができました。そして韓国の食べ方は、

日本とは反対で日本では器を持って食べるのがお行儀がよいのですが、韓国ではお行儀が悪いといわれており、汁物以外は器を持って食べません。実際に韓国の方々を見て、本当に器を持って食べていなかったのが、一つ勉強になって良かったです。

「住」韓国務安郡の街を見ていたとき、とてもどかな場所だと感じたことが印象に残っています。バスの中から様々な家を見て、初めに思ったことは一階建てが多いことです。ホームステイで泊めてくださった家も一階建てでした。そして、もうひとつ印象に残っているのはお風呂です。日本にいるときほとんどの韓国人はシャワーで洗い流すと聞いていたので、日本のように浴槽はないのかなと思っていただけ、実際に行ってみると、ホテルには浴槽がありましたが、やはり、ホームステイ先ではシャワーでした。実際に自分の目で確かめることができよかったです。

2. ホーム・ステイを体験して

人生で初めてのホームステイでした。ホームステイでお世話になったジウォンさんと初めに行ったところはカルビの焼き肉屋さんでした。韓国では日本のように一口サイズに切っているのではなく、骨つきのままお肉が長くついていました。韓国では焼いてから一口サイズに切り、チシャバにお肉とキムチを巻いて食べる人が多いそうです。私もその食べ方で食べました。キムチと一緒に食べたことがなかったので良い経験をしました。



その後ジウォンさんの家族とショッピングモールに行きました。お菓子など様々なものを買ってくださったので韓国語で「カムサハムニダ」日本語で「ありがとうございます」と言いました。ジウォンさんのお母さんにちゃんと通じたので良かったです。ジウォンさんのお母さんは日本語の練習をしていて上手くコミュニケーションをとることができました。はじめは不安でいっぱいだったけどジウォンさんも優しくしてくださって夜は気持ちよく眠ることができました。朝は韓国の稲荷寿司を食べました。韓国の稲荷寿司は三角形の形をしていました。味は日本と似ていたの、とても美味しかったです。いつかお互いにまた会える時がきたら、沢山話したいと思います。2016年の夏は良い思い出ができて本当に良かったと思います。

3. この国際交流プログラムで学んだこと

私は、この国際交流で沢山のことを学ばせていただきました。異国の文化を知り、言語を使い、友情を育むむという様々な経験をしました。この経験を生かし、将来役に立てることができるといいなと私は思いました。短い間でしたが、ぜひもう一度行きたいと思いました。また、他の国にも行きたいという思いも持ちました。いつか新たな目標を持って、異国を訪ね、その国と日本との交流を深め、日本との違いを学びたいと思います。



⑥吉田 萌乃 北名古屋市長天神中学校2年

1. この国際交流プログラムで学んだこと

私の姉は、以前この国際交流プログラムに参加をしました。姉は国際交流プログラムで友達になった務安郡の人と今でもSNSを通して交流を続けています。姉を見ていて、私も姉と同じように、海外にたくさんの友達を作り、そして海外の文化に触れたいと思い、このプログラムへの参加を希望しました。



この国際交流プログラムでは、韓国の文化について学ぶ機会があり、とても新鮮な気持ちで取り組むことができました。中でも印象に残ったことは、チマチョゴリを着て茶道体験をしたことです。準備をしていただいたお茶を飲んだ時に、日本のお茶と韓国のお茶の味の違いに驚きました。また、韓国ではお茶のお手前をする際に、男女で違いがあることを初めて知りました。お手前を一つ一つ丁寧に教えていただいたのですが、覚えることが難しかったです。とても貴重な体験ができたと思いました。

2. ホーム・ステイを体験して

私はホーム・ステイ体験が初めての経験で、ホストファミリーとコミュニケーションをとることができるかなど様々な不安がありました。そんな不安な気持ちの私をホストファミリーは温かく迎えてくれ、とても安心しました。

ホーム・ステイ先の家のリビングには、私の家族がプレゼントしたお土産が飾ってあり、とてもうれしかったです。ホーム・ステイ中は、ショッピングやご飯を食べに行ったり、ウォーターショーを見に行ったりと充実した毎日を送ることができました。最初はなかなかとることができなかったコミュニケーションも少しずつとるこ



とができるようになり、互いの家族のことや、学校のことについて遅くまで話をしました。

ホーム・ステイを体験して、韓国と日本の違いについていくつか知ることができました。その一つが食事のマナーについてです。韓国では、食事の際、あぐらをかき、お茶碗を持たずに食事をするのが一般的であるということを知りました。日本では、食事マナーにそぐわないといわれていることが韓国ではマナー違反ではないということに文化の違いを感じました。食事のこと以外にも、ホーム・ステイ体験を通して多くのことを知ることができてとてもよかったです。

楽しかった日々もあっという間に過ぎ、ホーム・ステイ期間が終わりました。この貴重な体験を今後も大切に、これからもホストファミリーと交流を続けていきたいと思いました。

3. これからの日本と韓国の交流について

私は今回の国際交流プログラムに参加して、日本と韓国の文化の違いを体験したことで、互いの国について考えるよいきっかけとなりました。また、言葉が通じなくてもジェスチャーを使い、少しずつ互いの気持ちを理解していくことで、心を通わせることができました。日本と韓国には歴史上、様々なことがあったことを改めて知る機会にも



なりました。中にはいまだ解決されていない問題があることも知りました。今後様々な問題が解決に向けて、一步一步進んでほしいと強く願っています。そして、正しい歴史認識を今後私たちの世代が次の世代に伝えていく役割を担っていくことになると思います。

今回の体験を通して、日本に一番近い国「韓国」のことをもっと知りたいと思いました。私自身ができることは小さなことかもしれませんが、今回の貴重な経験を通して、韓国と交流する機会があれば積極的に参加をしたいと思いました。このような貴重な体験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



⑦大島 侑樹 北名古屋市長西春中学校1年

1. この国際交流プログラムで学んだこと

ぼくが国際交流に参加した理由は、今までに飛行機に乗ったことがなかったことと海外に行った事がなく、外国の人たちや国の様子を見てみたいと思ったので参加したいと思いました。そのため、今回の国際交流プログラムに受かった時は、とても嬉しかったです。韓国の人と初めて会う時は、「仲良くなれるかな、コミュニケーションがとれるかな。」と心配で、最初は緊張のあまり少ししか話せなかったけれど、一緒に食事をしながら話をしていくうちに少しずつ仲良くなり安心しました。



この国際交流では色々なことを学びました。まず韓国で行った干潟は、海の水が引いてできたもので日本にはないものです。とても広くてカニや貝やハゼなどの生き物がいました。人が歩いてても平気なことに驚きました。他にも、食事の時のマナーや韓国語の発音の仕方などたくさんことを学びました。ホームステイでは人の優しさや家族の大切さ、家族の暖かさを感じました。お互いに支え合う気持ちや相手のことを思う気持ちがあればたとえ同じ国ではなくても心が通じ合えると思いました。韓国と日本はまだまだ相手を信じてないようですが、お互いにその国の良さや違いを理解しようとする気持ちが大切だと思います。この交流会が少しでも日本と韓国の架け橋になればいいなと思います。この交流会の体験は僕の未来にとってとても大きな財産になると思います。この交流会に参加できて本当に良かったです。

2. ホーム・ステイを体験して

僕のペアのホンソク君は、背が高くてサッカーが好きな子でした。初めに僕の家に来た時は少し緊張していましたが、買い物に行ったり、夕飯の手巻きずしや流しそうめんを一緒に食べたりすると少しずつ笑顔を見せてくれました。手巻きの具は、マグロがお気に入りのようでした。韓国にもわさびはありますが、日本の方が数倍からいようで食べて苦笑いをしていました。ボウリングもみんなで楽しみました。

韓国のホームステイでは、チェ・ホンソク君の家に行きました。お父さんが車で迎えに来てくれましたが、車の中では緊張してあまり会話ができませんでした。

ホンソク君の家は一軒家でとても広い家でした。周りには畑が多く、目の前には小学校もありました。夜は光州という所に行き食事をし、買い物をしました。夕食は、日本と少し似ている「おすし」を食べました。わさびはたくさん入っていましたがあまり辛くなく、とてもおいしかった。



くれました。とてもおいしかったです。家族と一緒に写真を撮り、お別れのときは、お父さんが「また遊びにおいで」といってくれました。そして最後に握手を交わしました。家族みんな親切で優しく、とてもいい思い出ができました。今度行くときは、もっと自分から積極的に話せたらいいなと思います。

3. 日本と韓国の相違するところ、共通するところ

まず共通点は、自然がとても豊かだということです。春は、日本と同じで桜が満開に咲きます。気温はあまり変わりませんが、湿度は韓国の方が少し低いようです。

言葉は全く違います。日本語は小さい文字を少しにごらせて読みますが、韓国語はカタカナに変換して小文字を読む時「ん」と発音します。そして、少し強弱をつけるだけで意味が変わってしまいます。日本語も同じ言葉でも発音の仕方で意味が変わってしまう物があるのでそういった部分は少し似ていると思いました。他にも、食事のときに日本は箸を使って食べますが、韓国ではご飯以外はスプーンやフォークを使うので驚きました。歩く時のマナーやお茶の入れ方（茶道）も違いました。また、韓国の民族衣装は、日本の浴衣より涼しく動きやすかったです。日本と韓国では違うことがたくさんあります。でも共通しているところは、みんなとても優しいところです。お互いを思いやる気持ちを忘れず、これからも韓国との交流が続いていくといいなと思います。

交流会で出会った人や経験を大切にしてください。これから色々な事に生かしていきたいです。そしていつかまた韓国に行き、もっとたくさんを知りたいです。

たです。その後の買い物で、韓国のお金を初めて使いました。使い方が解らなかったのですが、お母さんが教えてくれました。そしてホンソク君の家に帰りお風呂に入りました。お風呂は日本と違ってシャワーと洗面台しかなくて驚きました。トイレも繋がっていました。お風呂から出るとホンソク君が桃を持ってきてくれました。日本の桃とは違って甘みが少なくとてもかたかったです。夜はホンソク君の部屋で寝ました。ぐっすり眠れました。次の日の朝は、ホンソク君と散歩に出掛けホンソク君の弟の小学校を見に行きました。日本とあまり変わりませんでした。朝食はお母さんが作って



⑧草川 伊織 北名古屋市立白木中学校1年

1. ホーム・ステイを体験して

僕は、ホーム・ステイを体験して、韓国の文化が日本文化と違う事を知りました。

今回すごく助かったのは、スマートフォンで、韓国語を日本語に変換する機能があるので、気軽に話しをかけることができ、よかったです。

また、とても英語が必要なことです。英語は韓国語の次に伝えることができるし、学校で簡単な英語は習うので、相手が英語で話してくれるので、とてもわかりやすいことがうれしかったです。

食事も、焼肉屋では日本と違って、肉を買ってからお店にはいるという日本ではあまりないスタイルで、おどろきました。ホーム・ステイをさせていただいたお家はマンションですが、「日本の言い方」といわれ、韓国では、ビルのようなマンションを「アパート」というと教えてくれました。

今回とてもうれしかった事は、ホーム・ステイ先のご家族が噴水ショーをしてくれて「歓迎クサカワ 伊織」と、事前に、申し込んでくれたことです。

楽しかったことは、ボーリングに連れて行ってくれたことです。いつも行っているボーリング場と違って、レーンに油がとても多くて、ボールを置くだけで、ボールが転がるのでとても速くボールを転がすことができましたのですけども、ガターに転がったりしてストライクがでなかったのがくやしいです。ホーム・ステイ先の人たちとボーリングが出来たので、とても楽しい思い出が出来ました。またもう一度ホーム・ステイ先の人たちとボーリングをやりたいです。

日本ではお風呂に入るのですが、ホーム・ステイ先では、浴槽があるものの、シャワーで済ませることが多いようで、おどろきました。



2. 北名古屋で感じたこと、務安で感じたこと

務安郡で感じたことは、北名古屋市よりも面積が大きいことです。なぜなら、スندان美術館からホーム・ステイ先のアパートまで30分かかるので、務安郡が愛知県と同じくらいの面積だからです。

そのほかに感じたことは、北名古屋市と違ってアパートが一箇所に集まっていてその近くには平屋がないということと、アパートと同じ形をしたボーリング場やスーパーマーケットがあるということです。



3. その他

その他は、韓国の有名なところは、食べ物、のりや、高麗人参、キムチなどの辛い物が有名です。

韓国国際交流体験1日目は、歓迎晩さん会をした。歓迎晩さん会でダンスやテコンドーを見ましたが、一番心に残ったのが、テコンドーです。木片を手や足で割っているのを見て「自分にはできないな」と思って心に残りました。

韓国国際交流体験2日目は、スندگان美術館に集合し、パド牧場で牧場見学

してからチョコレートアイスクリームやチーズも作って食べたり、干潟を見学したりしました。昼食後は生態系干潟センターなどを見学しました。韓国国際交流体験2日目で一番心に残ったことは、チョコレートアイスクリームです。なぜなら、自分たちでつくったのでとてもおいしかったからです。

3日目は、韓国式茶道の体験と韓国文化を体験し、美術館に寄ってから昼食を取り、フェサン白蓮池を見学した後ソウルに行きました。3日目で、一番心に残ったのは、フェサン白蓮池です。なぜなら、池全体に広がる水蓮がともきれいだっただからです。

4日目は、水原華城に行って、その後に映画やドラマの題材になっている民俗村を体験しに行きました。4日目で、一番心に残ったのは、水原華城です。なぜなら、いつも母や祖母がドラマで見ている歴史的建造物を間近で見ることが出来たからです。

5日目、派遣最終日は、青瓦台と昌徳宮の見学、南大門などの韓国食料品店で買い物をし、昼食を取った後仁川国際空港から中部空港に移動して全日程が終わりました。

5日目派遣最終日で、心に残ったのは、南大門での買い物です。なぜなら、名古屋みたいに店がずらり並んでいてとても親近感があったからです。

今回の派遣5日間の中で一番心に残ったことは、フェサン白蓮池です。なぜなら大きな池をあまり見たことがなかったのに、池一面に水蓮の花が咲いていて日本でもあまり見ない絶景だったから、今回の派遣でとても心にのこりました。



⑨上原 海愛 北名古屋市立白木中学校1年

1. ホームステイを体験して

私のホストファミリーは、高層マンション16階に住んでいて、家族構成は、造船所で夜勤のある仕事のお父さん、内職で針仕事をしているお母さん、ソリちゃん、11歳の弟の4人です。韓国では生まれた年から1歳と呼ぶので、日本式で表すと10歳です。

晩御飯には、トッポギ、チャプチェ、プルダック、キムチなど、韓国ならではの馳走をオモニ(母)がたくさん準備してくれていました。どれも辛い想像をしていましたが、味付けは甘辛い感じで食べやすく美味しかったです。

食事の時に使った箸は銀色ですごく重かったです。韓国では茶碗を持たない習慣があると知っていたけど、私は日本風に食べました。

食事の後には、音楽噴水とショッピングモールへ連れて行ってもらいました。音楽噴水はその名前のとおり、音楽に合わせて踊るように出る水と、色とりどりの照明で作り出す音楽と水と光とが、まるで芸術作品のようで、暗闇に映し出される感じがとても幻想的で感動しました。ショッピングモールでは、韓国の色々な商品をオモニとソリちゃんが紹介してくれ、韓国のりにもたくさん種類がある事も教わりました。



私は、ホームステイを体験した時、何をしゃべっても伝わらないという事と、伝わらない事を言葉でどう伝えればいいのかでとても困りました。でも、言葉が伝わらない分、笑顔とジェスチャーをいっぱい使うことができました。私はこの言葉の壁のおかげで、言葉が伝わらなくても笑顔があれば伝わる気持ちもあることを知って、大丈夫なんだということが分かりました。すごく緊張していましたが、オモニが日本語で話しかけてくれたり、ホストファミリーが本当に優しく接してくれたので、とてもほっこりとした優しい気持ちになれたし、自分から積極的に話すことができました。

私はわりと人見知りをするほうですが、自分から話しかけられた事は、とてもいい経験となり、これからの自信にもつながりました。

私はわりと人見知りをするほうですが、自分から話しかけられた事は、とてもいい経験となり、これからの自信にもつながりました。

ホームステイの時間は、旅行では見る事のできないリアルな韓国の日常が見られたので、すごく貴重な時間だったと思います。お世話になったホストファミリーはとても温かくて、まるで新しい家族ができたようで、とてもうれしく思います。

2. 韓国に行って感じたこと

務安やソウルと日本との違いで気づいたことを三つに分けてみました。



まず伝統民族衣装のチマチョゴリについてです。私が着せてもらったものは、日本の浴衣や着物の様に着付けなどはせず、スカートの上にリボンがついた服を着ただけで完成でした。素材の布は風通しが良く涼しかったです。また、とても軽くて動きやすく、すごくカラフルで、袖の端には花柄の模様が付いていてとてもかわいかったです。また、茶道も体験させてもらいました。

次に韓国で食べたものについてです。真っ先に感じたことは、キムチが日本で食べたことのあるものより辛いということです。韓国では毎食キムチがでるなど、キムチ好きが多いと聞いておどろきましたが、あの辛さに納得が이었습니다。日本での梅干しの様な感覚なのかなと思いました。他にはホームステイの時にオモニが作ってくれたチャプチェという春雨を炒めた料理が、日本でよく食べるような甘じょっぱい味で、とても美味しくて印象に残っています。それと、ミヨッククというわかめの入ったスープも、わかめのコリコリした食感が美味しかったです。

また、お菓子については、かっぱえびせんやポテトチップスなど日本のお菓子が韓国語の表示で売っていたり、なかには日本語のまま売っているものもありました。日本では、チョコパイの中にマシュマロが使われていますが、韓国ではお餅がチョコレートでコーティングされていて、とても面白いと感じました。韓国で食べたお菓子を、日本に帰ってからスーパーで売っていたのを見つけた時には、日本と韓国の食べ物の好みは良く似ているのかなと思いました。

最後に車についてです。韓国では日本とは違い、運転席も車道も左側でした。日本のように規則的に交わる交差点ではなく、斜めに交わる交差点が多いせいか、道路脇に立つマンションなどの形は、日本とは少し違っていました。

外を歩いている、ものすごい速度で走ってくる車もいて、少し怖かったです。交通事情に関しても、日本はとても安全な国なんだなと思いました。

3. この国際交流プログラムで学んだこと

国際交流プログラムに参加できて、言語、文化、習慣などの違いや、仲間と笑顔の大切さ、たくさんの方が学べました。

言葉が全く通じない事で、全てが不安でたまらなかったホームステイ中、ホストファミリーと出かけた先で、同じ国際交流の友達と偶然会いました。彼女も同じように不安なはずなのに、思いきりジェスチャーを使い意思表示をしていました。私にはその姿が、言葉が通じないことさえ楽しんでいるように見えて、スゴイ！！と思いました。それを見た時、自分に足りない事に気づきました。「笑顔」です。それからは特に笑顔でいる事を意識してみたら、不思議と通じないなりに会話が増えました。まさに「言葉が通じなくても笑顔は通じる」です。笑顔は言語、文化、習慣を越える最強の武器だと思いました。思えば韓国に滞在中には、仲間がたくさん助けられ、その時必ずあったのも笑顔でした。限られた短い期間でしたが、今回の様な体験をさせてくれた家族への感謝の気持ち、貴重な海外での生活、笑顔の大切さは、忘れることのない財産となりました。

⑩石原 美桜 北名古屋市立訓原中学校1年

1. ホームステイを体験して

このプログラムに参加して、一番楽しかった事は、ホームステイでした。私がホームステイに行った家は、7月に私の家に泊まりに来たヒュンジョンさんの家です。彼女の家に行くまでは、心配な事ばかりでしたが、家族の皆さんはすごく優しく、みんなと会って会話をするうちに、すぐに打ち解けることができました。ホームステイは1日のみでしたが、家族の皆さんに最高のおもてなしをしてもらいました。家は自然に囲まれたのどかな所で、空気がおいしく感じました。ヒュンジョンさんの家に着くとすぐ、お父さんにピザは好き？と聞かれ、夜ご飯はレストランに連れていってもらい、ピザやパスタなどをごちそうになりました。そこでピザは、はちみつのようなシロップをかけるもので、日本では食べた事のない味でしたが、すごくおいしかったです。その後、ボウリングに行きました。みんな慣れているようでストライクを連発し、とても上手でした。みんなと過ごす時間がすごく楽しかったです。



帰宅後、家の庭で花火をしました。庭は広く、花火をするのには十分な広さでした。私はもう何年も花火をやっていなかったので、最初はこわかったのですが、すごくきれいで楽しかったです。

次の日の朝、早く起きて屋上に登りました。家は丘の上にあるので、朝日に照らされ輝く山や木々を見渡す事ができました。いつの間にか屋上までついてきた猫達も私達の足元で気持ちよさそうに横になっていました。私は犬を飼っているのですが、犬には慣れていましたが、猫の事も好きになりました。

ヒュンジョンさんの家には1日しかいることができななかったですが、おいしい物を食べ、花火やボウリングで遊ぶ事ができ、すごく楽しかったです。家族のみんなに温かく歓迎してもらうことができ、忘れられない思い出になりました。せっかく仲良くなったヒュンジョンさんとお別れするのはさみしいけど、また大人になったら、ヒュンジョンさんや家族の人たちに会いたかったです。

2. 務安で感じたこと

国際交流プログラムでは、務安へ行きました。務安は私が住んでいる北名古屋市とは違い、山や海に囲まれた自然の多い所でした。ここでは、韓国の伝統的な衣装であるチマチョゴリという服を着ました。日本の着物と西洋のドレスを合わせたようなきれいな服でした。なかでも気に入ったのが、上はピンクと青、白の3色のもの、下はスカートのようなピンクのものでした。なかなか一人では着るのが大変で、務安の人に手伝ってもらってようやく着れました。帯のようなものを胸のあたりに付けるのですが、着る前に、みんな何度か練習したので、すぐ



に付けられました。きれいなチマチョゴリを着たまま、お茶とお菓子をいただきました。チマチョゴリを着ていただくお茶やお菓子はとてもおいしかったです。

その後、韓国の礼の仕方を習いました。少し難しかったですが、すごく丁寧だと思いました。しゃがんで礼をした後、立っておなかの前に手を合わせ頭を下げるというものでした。国によって言葉が違うように、礼の仕方も違うのだと知りました。

3. 日本と韓国の相違するところ、共通するところ

私は、この国際交流を通じ、日本と韓国は共通するところが多く、相違するところの方が少ないように感じました。

まず、違う点は言葉です。なんとか身振り手振りで伝える事ができましたが、言葉が通じにくいというのは大変でした。また、韓国ではお金が円ではなくウォンでした。日本での100円が韓国での1,000ウォンくらいになります。韓国のコンビニでお菓子を買いましたが、レジで5,000と表示されて「高い」と思いびっくりしました。でもよく考えると500円くらいだったのでほっとしました。

共通する点は食文化です。日本と同じように、韓国の人もお箸を使ってご飯と汁物を食べます。しかし、韓国のお箸は、金属製で少し平たく重かったです。なぜ金属製なのかヒュンジョンさんに聞いてみると、木製だとキムチの色やにおいが移ってしまうからだと言っていました。すごく納得しました。また、日本人と韓国の人たちは、見た目も似ています。肌の色、背の高さ、髪の毛の色などそっくりです。ヒュンジョンさんが私の家に来る前に、一緒にどこへ行こうか、彼女の好きな食べ物は何かと一生懸命考えてお迎えしたように、韓国の人達は優しく私達をむかえてくれました。国は違いますが、日本人も韓国人も、人に優しく接する点は一番の共通点だと思いました。韓国については、まだ知らない事がたくさんあるので、少しずつ勉強していきたいと思いました。



⑪乾 真悠子 北名古屋立熊野中学校1年

1. この国際交流プログラムから学んだこと

初めての国際交流で学んだことは、主に二つです。

一つ目は、コミュニケーションをとるには、色々な方法を試すことが大切だということです。最初、私はホストファミリーの子と、簡単に話せると思っていました。しかし、実際に会ってみると、言語の違いもあり、伝えたい事をはっきり伝えられませんでした。そこで、英語と翻訳機を使ってコミュニケーションをとることにしました。最初はうまくコミュニケーションをとることができていましたが、聞きたいことや話したいことが複雑になるにつれ、正確に伝えることが難しくなっていました。ここで、翻訳機を使ったことで失敗したエピソードを紹介したいと思います。自己紹介をしたときに、名字の「乾(いぬい)」を翻訳機で訳して伝えたら、「あなたは乾燥した真悠子なの」と聞かれました。この経験から、コミュニケーションの方法は一つだけではなく、色々な方法を試しながら、両立して使うことで、より正確に伝えることができると分かりました。また、どんな方法でも、伝えたいという思いや知りたいという気持ちが、重要だと思います。

二つ目は、考えを自ら伝えることが大切だということです。日本にいる時は自分の考えを言わなくても、周りの人が代弁してくれていました。しかし、韓国ではお互いの言葉が違うので、自分の考えを察してくれません。嫌いなものを嫌いと言えなかったり、欲しいものを欲しいと言えなかったりすると、自分の中でストレスがたまり、良い人間関係を築くことができません。良い人間関係を築くためにも、相手が聞いてくれるのを待つのではなく、考えを自ら伝えることが大切だと感じました。

これらのことから、海外の人とコミュニケーションをとるには、日本語だけではなく、英語をより学んでいく必要があると実感したので、英語の授業を今まで以上に頑張っていきたいです。また、他人に考えをしっかりと伝えるためには、考えを言葉にすることが大切だと感じたので、進んで発言できるようにしていきたいです。

2. ホーム・ステイを体験して

現地では、生活の中でしか分からない文化の違いを感じました。それは、とても貴重な経験でした。いくつかを挙げると、ご飯の食器は鉄製、はしは共用で鉄ばしであることや、座るのは常にあぐら、片手で食事、トイレの紙はゴミ箱に捨てるなどです。また、日本での常識が、時に非常識になる事があると知りました。日本では、お茶碗を持って食べるのは常識ですが、韓国では、持たないのが常識です。相手の文化を尊重するためにも、きちんと文化を学んで参加するべきだと考えました。

また、ホームステイ先でのおもてなしには、温かい心を感じました。私のために、家族で



ボーリング場や雪氷などを企画し、迎え入れてくれました。「雪氷」は、韓国で有名なスイーツで、私が一番楽しみにしていた物です。私が最も感動したことは、彼女の弟が、会った事もない私の弟のために、おそろいの時計をプレゼントしてくれたことです。私の弟は、とても喜び、英語とイラストの手紙を書きました。弟同士の国際交流の始まりです。

3. その他 ー文化の移り変わりー

韓国では、様々なところで伝統文化がみられ、人々に愛されています。例えば、「ブルーハウス」。韓国伝統の青い瓦を使用した、大統領官邸です。韓国の伝統文化で特徴的な点は、きらびやか、華やかな物が多いところです。建築文化だと、宮殿や石橋など伝統的なものだけではなく、当時の最新技術を駆使したレンガのえんとつ・調理場、珍しい色（赤・青・黄色・緑）を使った壁画や王座などがある、「昌徳宮」。1997年にユネスコ世界文化遺産にも登録され、その素晴らしさに魅了され、多くの外国人観光客も訪れていました。また衣服文化は特に美しく、代表的なものに、女性用の衣装「チマ」と「チョゴリ」があります。上着の「チョゴリ」は短く、装飾が華麗で、スカートの「チマ」は長く、やわらかなシルエットが特徴的です。韓国で実際に、私も体験することができました。現在では、婚礼や伝統行事などに着用されています。これらの特徴は建築物や衣類に限らず、形を変えながら、現代の韓国人につながっていると思います。

例えば、最先端の「ファッション」や「メイク」の他にも、色鮮やかな具材を海苔巻きにした食文化・「キムパ」、韓国独自の音楽文化「K-POP」など、生活の中にとけこんでいます。このように伝統・文化・歴史などは、その時代に合わせ、形を変えながら、人々に愛され続けていると分かりました。



⑫吉永 沙和 北名古屋市立熊野中学校1年

1. ホーム・ステイを体験して

私はウナさんの家にホーム・ステイをしました。そこで、日本と韓国の生活や文化の違いを知ることができました。

一つ目は日常生活の違いです。私は1日目に木浦市にあるショッピングモールに行きました。レジの様子が日本と違い、ベルトコンベアーに商品に乗せレジまで流れていて、びっくりしました。また、韓国人はお風呂で湯船につからず、シャワーだけで済ますことも分かりました。

二つ目は食事の文化の違いです。朝ご飯を食べるときに、ウナさんやウナさんの家族は、お米を日本と同じ箸で食べていました。しかし、ウナさんのお母さんによると、年配の人たちはスプーンを使うこともあるようで、世代間の差もあると分かりました。また、家庭でも茶碗に



ふたがついていたり、男性だけでなく女性もあぐらをして食事をしたりするなど、日本との食事の文化の違いを感じました。

このように、実際に韓国に行くことで、生活や文化の違いを知ることができました。また、外国の方と関わる時は、相手の国の文化を認め、理解することがとても大切であると感じました。

ちなみに、帰るときに、ウナさんのお母さんや他の家族の方が「またいつでも遊びに来てね。」と言ってくれてすごく嬉しいし、韓国に来てからの一番楽しい思い出となりました。私もウナさんのご家族に「日本へも必ず来てください。」と伝えました。ホストマザーが沢山のお菓子や、弟や妹の服を用意してくれました。私はとても親切にさせていただいて、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

2. 北名古屋市で感じたこと、務安で感じたこと

この国際交流プログラムで、私は心を込めてコミュニケーションすることの大切さを学びました。ウナさんたちは、スキンシップが多く、積極的に私たちと仲良くしようとしてくれました。私も分からない言葉を伝えるため、英語を交えたり、ジェスチャーや絵、あるいは簡単な言葉を使ったりして、相手に伝わりやすいようにすることを心がけました。そうすることで、次第に会話が弾むようになり、会話をすることが楽しくなっていました。

この体験から、たとえ言葉が通じなくても、あきらめないうで、積極的に、心を込めて会話をすることの大切さや、そうしなければ外国語は上達しないということを知りました。

3. これからの将来・生活に生かしたいこと

私は普段、友達や家族との会話でも、相手の気持ちを考え、心を込めて話すことで、私とウナさんのように、心を通わせた深い信頼関係や友情をつくっていきたいと思います。また、韓国の子の英語の発音はとても流ちょうでした。ウナさんに聞くと、英語の授業が日本よりも多く、英語の教育のレベルの高さに驚きました。それを知って、私も英語をはじめ、たくさんの外国語を習得し、国籍を問わずたくさんの人と話せるようになることで、様々な人の考え方や文化を知り、自分の視野を広げていきたいと思いました。



これらは自分の将来にも役立つと思います。将来、私は保育士になりたいと思っています。おそらく、初めて自分のクラスをもったとき、私はきっと緊張してしまうでしょう。しかし、そのような気持ちに負けず、自分から明るく積極的に話しかけて、子どもたちと信頼関係をつくり、心の通った楽しいクラスにしたいなと思います。それと同時に、私は世の中には色々な考え方や文化があり、それを認めることの大切さや、視野を広げて物事を考えることの大切さを、子どもたちに伝えたいと思います。視野を広げて物事を考えることの大切さは、私が保育園に通っていたときに、先生から教えていただいたことです。私が友達と対立してなかなか意見を曲げられなかった時がありました。そのとき、先生は「沙和ちゃんも正しいけれど、でもお友達の考え方もちょっと聞いてあげると、沙和ちゃんもわかることがあるし、お友達も沙和ちゃんの言いたいことがわかると思うよ。」と私におっしゃってください、私は自分だけの考えにとらわれていたのだと気づかされました。この経験から、人の気持ちを考え、自分とは違う意見を認めることが大切であると分かりました。私もこの先生のように、他の人の考えを認め、自分の視野を広げることの大切さを伝えられる先生になりたいと思います。

今回の国際交流プログラムで、より具体的に自分の理想とする先生をイメージすることができました。その理想に近づけるように、一日一日を大切に、どんなことでも精いっぱい努力していきたいと思っています。

● 研修交流体験アルバム

～北名古屋での交流体験～

7/
25



駐名古屋韓国総領事館
表敬訪問

旧加藤家
茶席・浴衣体験



市役所表敬訪問



歓迎交流会



トヨタ会館

名古屋城



名古屋市科学館プラネタリウム



ホームステイ先へ



昼食

次の研修地へ

7/
27



～務安での交流体験～

8/8



龍山駅 (ソウル)



松汀駅 (光州)



歓迎
晩餐会



務安郡庁表敬訪問



パド牧場

8/9





務安生態系干潟センター



ホダム航空宇宙展示場



務安窯



8/
10

回山 (フェサン) 白蓮池





草衣禪師誕生地 (韓服着用、茶道体験)



8/
11

世界遺産水原華城



8/
12

景福宮・青瓦台



韓国民俗村



昼
食



南大門市場



仁寺洞



中衣禪院

清和難持比皎潔

殊相劣形誰擬議

(発行)

北名古屋市人事秘書課

北名古屋市国際交流協会

〒481-8531

愛知県北名古屋市西之保清水田15番地

TEL : 0568-22-1111 FAX : 0568-25-1800

URL : <http://www.kitanagoya-kiia.jp/>